

「立ち上がる農山漁村～新たな力～」選定概要書

1. 「新たな力」団体等名称

九州東海大学農学部応用植物科学科作物学研究室

2. 協働している取組の名称及び応募団体名

取組の名称：「米の産直」 都市との連携“食から緑のエネルギーへ”

応募団体名：南阿蘇おあしす米生産組合（事例 No.47）

3. 協働している取組の概要

平成元年熊本県旧白水村のJA青壮年部7名は、米の無農薬栽培を試験的に開始し、平成3年に産直に取り組むため現活動団体の前身である「白水村おあしす米生産組合」を設立した。

「おあしす米」は店頭での販売は行わず、農家名を記載した商品を顧客に直接届けることで信頼関係を築いている。注文は予約制を基本とし、毎月1回農家毎に精米直後の米を発送している。平成11年には「おあしす米」の名称を商標登録するなど、安心・安全な米のブランド化を進める取り組みも行っている。安全な米づくりへの关心の高まりにより、地元小学校の給食に地元産の米が使われるようになった。

また、商品に月刊誌や季節毎の農産物を同梱するなどのサービスや、ホームページを活用した農家毎の経営や家族の様子の報告、「アイガモ田見学ツアー」と称した水田見学・バーベキュー大会の実施や、他地域に出向き、東京・大阪などの顧客と対話する機会を設けることで信頼関係を深め、心理的距離を縮める努力をしている。

平成3年にゼロから始まった取り組みは、現在では年間900組の顧客に82トンを直送するまでに成長した。

米の産直のノウハウを活用し、現在では米以外にもオリジナル地酒「一心行」の製造販売、規格外メロンを「場外ホームランメロン」と名付け販売するなど独自ブランド構築に向けた新たな取組にも挑戦している。

4. 取組への協力のポイント

南阿蘇おあしす米生産組合が活動を始めた平成元年当初、それまで九州地方では米の無農薬栽培はあまり活発ではなく、十分な知識やノウハウが得られない状況であった。

そのような中、九州東海大学農学部応用食物科学科の片野學教授が中心となり、新たに無農薬栽培に挑戦する農家への指導・助言を行い、長年にわたって農家毎の生育調査・収量調査を実施し、調査結果を各農家の栽培方法に反映していくことで、現在の「おあしす米」の安定生産が可能となった。

現在では、収量アップのための分析に加え、栽培方法と食味の関係を調査することによりモニターとして参加する農家と共に、より美味しい米作りのための研究を行っている。この研究成果が「おあしす米」生産農家の栽培方法に還元され、商品としての品質を高め、販売の拡大に寄与している。

なお、平成18年11月3日には、村と大学との総合交流協定が締結され、研究の担い手と生産の担い手の、より強力なパートナーシップが確立されることになった。